

多様な若者支援から見えた「予防的関わり」の重要性



Report

発達障がい・不登校などの学習支援「ラーンメイト」を運営

NPO 法人 み・らいず 2 (大阪府)

大阪府で不登校や発達障がいのある子どもの学習や生活支援をはじめ、幅広い若者支援事業を展開する NPO 法人み・らいず2。設立から 17 年を迎える民間団体で、学齢以前の療育から就労移行支援まで大きく 6 つの事業を展開する。現在、利用者は事業全体で約 800 名。学校や社会生活で苦戦する若者には、基礎学力や社会性の獲得が必要とされるが、それ以前の「遊び」や「外出」「雑談」といった余暇活動も重要な要素と捉えている。

NPO 法人み・らいず 2

電話：050-5840-3113
HP：http://me-rise.com/



法人本部：すみのえ事業所

〒 559-0015
大阪府住之江区南加賀屋 4-4-19

なかもず事業所

〒 591-8023
大阪府堺市北区中百舌鳥町 2-104
なかもず駅前ビル 402

たかつき事業所

〒 569-0804
大阪府高槻市紺屋町 3-1-212
グリーンプラザたかつき 3 号館 2 階

うめだ事業所

〒 530-0001
大阪府大阪市北区梅田 1-3-1
大阪駅前第 1 ビル 4 階 1-106 号室

Report

発達障がい・不登校などの学習支援「ラーンメイト」を運営
多様な若者支援から見えた「予防的関わり」の重要性

主な事業

「描く事業部」

ひきこもり、不登校、ニート、非行などの若者相談。障害児・者の相談支援。集団プログラムなど。

- ◇子ども・若者総合相談センター
- ◇み・らいず相談支援センター

「育む事業部」

幼児期の発達支援。不登校支援。学校内の居場所づくりなど。

- ◇児童発達支援「と・らいず みーと」
- ◇大阪市不登校児童通所事業（通称：サテライト）
- ◇高校内のプラットフォーム化プロジェクト
- ◇家でも学校でもない第三の居場所事業

「暮らす事業部」

ホームヘルパー派遣。医療的ケアが必要な子どもたちの支援、家族向けのイベントなど。

- ◇ホームヘルパー派遣「ヘルプセンター と・らいず」

「学ぶ事業部」

個別学習支援、集団活動支援。社会生活力の支援。高校生世代の居場所と学習支援など。

- ◇個別学習支援「ラーンメイト」
- ◇放課後等デイサービス「と・らいず みーと」
- ◇堺市学習と居場所づくり支援事業「Litto」

「働く事業部」

就労移行支援事業。相談や職場体験による若者の就職サポートなど。

- ◇就労移行支援事業所「ジョブステーション One Step」
- ◇堺地域若者サポートステーション

「遊ぶ事業部」

有資格者による外出支援。遊びに関する相談、体験など。

- ◇ガイドヘルパー派遣「ヘルプセンター と・らいず」

学校でも学習塾でも学べない 「障がい者の学習支援」いち早く着目

み・らいず2は大阪市住之江区に本部を置き、梅田（北区）、なかもず（堺市）、たかつき（高槻市）を含めた4拠点で6つの事業を展開している。ひきこもりやニート、障がい児・者の相談窓口のほか、幼児期の発達支援や不登校支援などの居場所づくり、個別学習塾や放課後等デイサービス、就労移行支援やガイドヘルパー派遣など、サービス内容は多岐にわたる。

設立は2001年。学外のボランティアサークルで知り合った4人の大学生が中心となり、障がい者の余暇活動を支援する取組みを始めた。自分たちは自由に遊んだり飲み会を開いたりしているが、障がいのある方は一人で時間を過ごすことが多く外出経験が少ない。「サポートすることで年齢相応の経験ができるのでは」と始まったのがきっかけだ。

当初は知的障がい者の支援を中心としていたが、次第に発達障がいなど他にも生きづらさを感じる人々がいることを知る。その中で発達障がいのある子どもの学習支援の必要性に着目した。当時はまだ特別支援教育制度が始まる以前で、障がい者の学習権や学びの重要性が認知されていない。学校以外の場所で学力を補おうとしても、学習塾の多くは集団授業が多く、障がいのある子どもたちが自分のペースで学べる場が極めて少なかった。そうした中、「個別指導なら対応できる」として始めたのが、現在も続く個別学習塾「ラーンメイト」だ。



個別学習支援「ラーンメイト」
個別学習がしやすいように机ごとに仕切りがある



就労移行支援事業「ジョブステーション One Step」の教室
同じ建物内に様々な事業が入り連携がしやすい



キャンプやイベント活動を実施し、
集団生活やソーシャルスキルなどを身につける



放課後等デイサービス「と・らいみーと」
「ランメイト」と併用する子どもも多い

ソーシャルスキルも学ぶ 個別学習塾「ランメイト」

ランメイトは高校生までを対象に、現在、大阪市住之江区のほか、高槻市、堺市の3教室で約60名が学ぶ。1回90分の授業を月4回行うが、カリキュラムはなく、個別の学習計画を基に進めていく。夕方から夜21時まで開講しており、発達障がいの子どもや不登校児童生徒、学校や適応指導教室に通いながら利用する子どももいる。

主なニーズは基礎学力の習得だ。大学受験や資格試験の対応も行うが、難関大学を目指すような進学塾とは違う。長期休暇には自然体験キャンプやイベント活動などを積極的に行う。近隣の大学でジュース販売をするなど接客体験も実施した。通常の授業日でも休憩時間にトランプゲームをするなどして、遊びと勉強のメリハリをつける。学習塾でありながら、ソーシャルスキルや興味関心を育む集団プログラムを行うのが大きな特長だ。プログラム作りには大学教授など専門家も携わる。勉強の先にある社会性の獲得が狙いだ。

そこで、ランメイトでは「学習姿勢」「社会性」「基礎学習」という3つの目標を立てているが、保護者のニーズはほとんどが「基礎学習」に集中する。今のところ個別面談や保護者向け勉強会を開催するなどして理解を促しているという。

背景には法人全体で幅広い若者を支援する中で見えてくる課題がある。最も利用者が多い「働く事業部」では、ニートやひきこもり、障がいのある若者などの就労支援を行う。利用者が抱える課題で共通するのは、子どもの頃の「遊び」や「雑談」といった余暇活動の希薄さだ。就労先で必要と

なる「相談」や「SOSの出し方」なども、こうした機会から経験を得ていく。

課題解決から「予防的な関わり」へシフト 学校や企業とのパートナーシップを構築

実は、法人は今年度から運営方針を転換し、法人名も自身の「み・らいず」から「み・らいず2」へと変更するなどリブランディングを図った。全体として、課題や問題が見つかったからの対応ではなく、将来を見据えた「予防的な関わり」を重視する。具体的には利用者の出口支援に力を入れるのだが、単に進学や就職をさせるのではなく、進路先の学校や企業とパートナーシップを結び、共に環境づくりを行っていくのが狙い。その基盤となる学びは、基礎学力の定着だけに執着せず、社会で自立するために必要な勉強とは何かを個別に考えていく。

すでに実践も始まっている。2015年には文部科学省の委託を受け「高校内における居場所のプラットフォーム化事業」の調査研究を実施。大阪府立高校内に「居場所カフェ」をオープンし、スタッフが生徒の悩みなどを気軽に聞ける機会を提供した。そのほかにもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとしてスタッフが派遣されるなど学校の中へ入り込んだ積極的な支援も行っている。

現在、中学生の主な進学先は私立通信制高校や高等専修学校が主となっているようだ。公立進学は少なく、一部特別支援学校へ進む生徒もいる。全日制高校へ進学はほとんどないという。一部の通信制高校では講演会を依頼されるなどの交流も始まっている。



今回お話を伺った方
野田満由美さん(写真左)
津田麻子さん(写真右)

共に環境をつくる関係づくりを

執行役員 野田満由美さん

私たちの活動は、NPO設立以前のサークル活動から数えると約20年になります。障がいのある子どもの学習支援という名目で始めていきましたが、当初、教科学習のニーズは少なく、どちらかというとお金の使い方、電車の乗り方といった社会体験をお兄さんやお姉さんたちに一緒に教えて欲しいというものでした。その後、大きく流れが変わったのは発達障害者支援法の施行に伴って生まれた特別支援教育の考えです。そこで改めて発達障がいの子どもの学習について考え直すかたちになり、同時に、障がいはなくても特性に偏りがあるような子で学校に受け入れてもらえず苦しんでいる子どもたち、学校に馴染めない不登校の生徒などが増えてきたのです。子どもの状態に関係なく、それぞれの個性に合わせた学習支援という方針が少しずつ今のランメイトのフレームに近いかたちに作られてきました。

ランメイトは私たちの法人の中では「学ぶ事業部」に属しますが、最近では事業も多様に加え、社会性やソーシャルスキルの要素は放課後等デイサービスへとシフトし、ランメイトは基礎学力の習得に特化したかたちになります。

こうしてメニューが豊富になりましたので、法人の中で多様な利用の仕方でもできるようになりました。例えば「学ぶ事業部」の放課後等デイサービスで学んだ子が「働く事業部」に移って就労移行支援を受けて就職していくように、様々な部署をまたいで成長していく流れが生まれています。また、平日はランメイトと放デイを併用し、土日は外出支援でヘルパーさんとお出掛けする子など、横並びで事業を使う子もいます。こうした利用の仕方ができるのが私たちの大きな強みだと思っています。

今年度から法人全体でリブランディングを図り、これまでの課題ありきの対策から予防的なアプローチを行っていくと目標を立てました。それぞれの事業で関わりある学校や企業などの取引先に対し、ただ「ああしてください、こうしてください」と言うのではなく、一緒に環境をつくっていける関係になれたらと思っています。

ただ、それを丁寧に利用者に伝えていく必要もあります。最初、保護者はどうしても学力定着にこだわってしまいがちです。これは成績というものでしか利用効果を判断する材料がないからです。なかなか社会性の獲得などは数値化できないところもありますが、例えば数学の勉強をしたからお金の計算ができるようになったとか、買い物に行けるようになったとか、そういう具体例をランメイトの中で深く実証していけたらと思っています。

多様な事業がありますので、事案によって様々なメニューを提示できると思います。最近では実際に学校の中に入っている居場所づくりや、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの派遣などを積極的に行っています。

現在、中学生の進学先、高校生の在学先のほとんどが私立の通信制高校や高等専修学校です。しかし、私たちの進路先の情報提供はまだ不十分なところもあります。今はスタッフが各校のパンフレットを取り寄せたり、実際に学校見学に行っている状況です。いくつかの学校とは交流を持てるようになりましたが、今後もこうした関係づくりを積極的に行っていきたいと思っています。また、何か私たちにできることがあれば、その要望に応じていきたいと考えています。